

老年病研究所附属病院の理念

1. 地域の人々の健康を守るための、研究と実践
2. 疾病の予防と治療に役立つ看護、介護の推進
3. 高齢社会における保健・医療・福祉のネットワーク作り

老年病研究所附属病院の基本方針

1. 最新医療の研究と実践
2. 質の高い安全な医療の提供
3. 多職種によるチーム医療の実践
4. 地域医療および社会への貢献
5. 職員教育の充実
6. 病院経営の安定

当院における脊椎脊髄手術

整形外科

副院長 島田晴彦



当院では、頸椎・腰椎椎間板ヘルニア、腰部脊柱管狭窄症、頸椎症性脊髄症、靱帯骨化症などによる首や腰の痛み、上肢・下肢の痛み、しびれや運動障害、歩行障害などの症状に対し、まずは薬物療法、生活指導やリハビリテーション、ブロック療法などの保存療法を行います。さらに必要な場合は、積極的に手術療法を行っています。以下に当院にてよく行われている手術について、紹介します。

優れた手術成績を得る上で重要なことは手術をするべきかどうか適切に判断することです。手術をしなくとも治る病気、あるいは手術をした方が早く治る病気、すぐに手術をすべき病気等の鑑別をしっかりと行って、患者さんに十分に説明し、治療法を検討します。

腰椎開窓術

頻度の多い手術として、腰部脊柱管狭窄症に対する腰椎開窓術（椎弓切除あるいは除圧術）があります。全身麻酔下につつ伏せとなり、腰部後方を切開し、脊柱管狭窄を生じている椎弓や黄色靱帯を切除して、神経根や硬膜の圧迫をとる手術です。（図1）2椎間が多いですが、1椎間や3椎間、あるいは4椎間が必要となることもあります。最近は棘突起や棘突起間靱帯を温存するように努めています。温存することで、術後の腰痛も軽減しているようです。また、不安定性が強い場合は固定術（骨移植し、金属で支える手術）を併用します。術後3～4日でコルセット装着して離床し、リハビリを行い、術後2～3週にて退院となります。

手術前



手術後

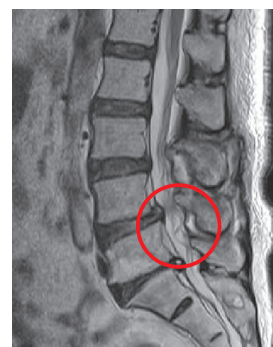


図1 手術により、硬膜管の圧迫が取り除かれています。

次ページへ

腰椎椎間板ヘルニアは腰部脊柱管狭窄症とともに腰痛や下肢痛を生じる代表的な疾患です。手術療法が行われるのは、保存的治療を行っても症状が軽減しない例、あるいは症状が反復し、日常生活や仕事はかなり制限される例です。多くは後方から椎間板ヘルニアを摘出する手術を行っています。全身麻酔下にうつ伏せの状態では腰部を切開し、後方から左右いずれかのヘルニア側の椎弓を切除して、愛護的に金属製のへらで硬膜・神経根をよけ、パンチにてヘルニアおよび変性した髓核を摘出して、硬膜管や神経根の圧迫を取り除きます。術後3～4日にてコルセットを装着して離床し、リハビリを行い、術後2～3週にて退院となります。また、最近では手術に準じた方法として、椎間板内酵素注入療法を行っています。局所麻酔を行い、透視下で酵素を注入して椎間板内圧を減少させて症状を軽減する方法です。(図2) 局所麻酔ですので、外来治療が可能な方法です。今年度から保険適応となった方法で、適応に条件がありますが、当院でも採用して、経過は良好です。

脊柱管拡大術(椎弓形成術)

頸椎症性脊髄症や頸椎後縦靱帯骨化症では頸椎の脊柱管が狭くなり、頸髄が圧迫されて手足のしびれや字が書きにくい、箸が使いにくい、ボタンがはめにくい等、手先が不器用になったり、歩行時つまづきやすい、杖が必要になる等の歩行障害を生じます。時に、排尿・排便障害を生じることもあります。手術方法は生まれつ

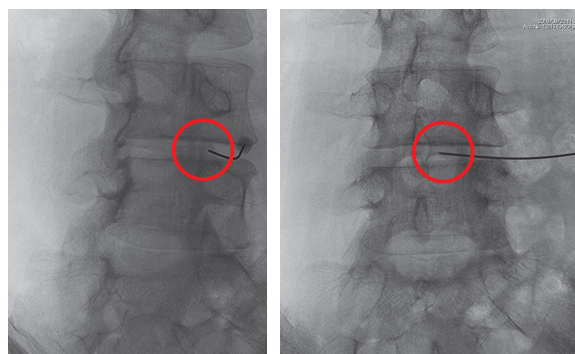
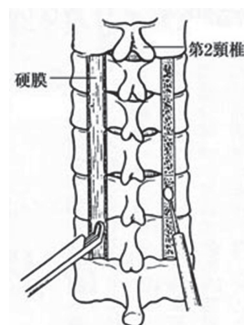


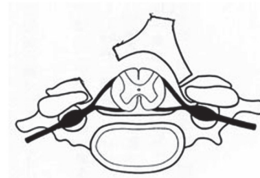
図2 椎間板内に酵素を注入し、椎間板内圧を減少させてヘルニアによる硬膜管・神経根の圧迫を軽減させます

き頸椎の脊柱管が狭かったり、広範囲に脊髄が圧迫されていたりする場合、脊柱管拡大術(椎弓形成術)を行っています。全身麻酔にてうつ伏せとなり、後頸部の皮膚を切開し、脊柱管の後方部分を形成している椎弓を露出させます。椎弓の両側に小さなエアードリルにて溝を形成し、椎弓の前方を一部残して薄くなるように削ります。さらに片方を削って切り離し、残された椎弓側を蝶番としてドアを開くように持ち上げて脊髄の圧迫を取り除きます。(図3) 持ち上げた椎弓が戻らないように、チタン製ワイヤーやプレートを用いて固定します。術後3～4日にて頸椎装具を装着して起立歩行を開始し、術後約3週にて装具を除去して退院となります。(図4)

以上、当科にてよく行われている手術を中心に述べてきました。もし、頸部痛や腰痛、四肢のしびれなど、脊椎疾患が疑われるような症状があれば、一度当科を受診していただき相談していただけたらと思います。



椎弓の両側に溝を作成する



片側を蝶番としてドアをあけるように椎弓を持ち上げて脊柱管を拡大する

図3

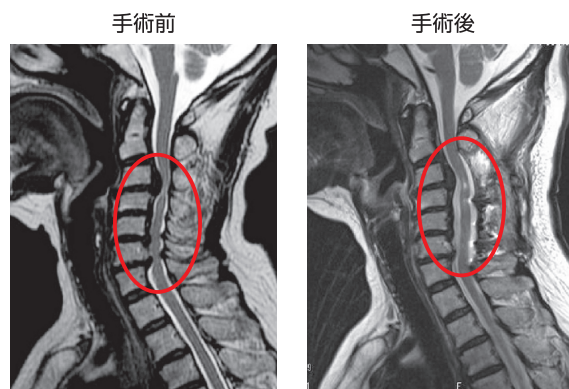


図4 拡大術により、脊髄の圧迫が取り除かれています

老年病研究会のお知らせ（医療従事者向け）

日時：令和元年10月31日（木）19：00～20：30

会場：群馬ロイヤルホテル 9階 ガーデニア
群馬県前橋市大手町1－9－7

電話：027－223－6111

開会の辞 老年病研究所 理事長 高玉真光

一般演題 19：10～19：30

座長 老年病研究所 認知症研究センター
センター長 東海林幹夫

「当院におけるトレリーフの使用経験（仮）」

演者 老年病研究所附属病院 副院長 脳神経内科 甘利雅邦

特別講演 19：30～20：30

座長 老年病研究所 所長 岡本幸市

「パーキンソン病治療 Update（仮）」

演者 国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター病院
PMDセンター長 脳神経内科 西川典子 先生

※医療従事者向けの講演会です。

※講演会終了後、懇親会の場をご用意しております。



10月の食事会のお知らせ



『400kcalで楽しむパン献立』

～パンの単位を知ろう～

- 日時：令和元年 10月4日（金）
12：00～講演会 12：30～食事会
- 場所：新館6階 講堂



花 名：ハギ
花言葉：思案・内気・柔軟な精神
撮影者：松原信子様

- ・食パン ・たまごサラダ（自分で作るサンドイッチ）
- ・きのこのスープ ・野菜のピクルス ・ヨーグルト

熱量 408kcal 蛋白質 17.9g 食物繊維 5.2g 塩分 2.4g

参加ご希望の方は病院受付にお申し込みください。会費 500 円です。

担当 管理栄養士 合田

受付時間 午前8:30～11:30まで / 午後1:30～4:00まで (土曜の受付は11:00まで)

※急患は24時間受付けております
※禁煙外来は初診のみで再診は内科外来で行います

外来診療表

第2・第4土曜日休診
※歯科口腔外科は第2・4土曜も診察しています

令和元年7月1日～

診療科目		曜日	月	火	水	木	金	土
		時間帯						
内科	午前		高玉真光・秋山	高玉真光 小池(9:00～)・秋山	高玉真光・勝山	高玉真光 勝山・秋山	高玉真光・勝山	高玉真光(10:30まで) 勝山
	午後			小池(14:00まで)	秋山		秋山	
禁煙外来	午前				勝山(完全予約制)	勝山(完全予約制)	勝山(完全予約制)	
脳神経内科	午前		岡本・東海林・菊池	岡本・東海林・甘利	岡本・東海林・甘利	岡本・酒井	岡本・池田	菊池
	午後		清水	清水	山内(15:30まで)	甘利(完全予約制14:00まで) 瓦林・漆田	池田(15:30まで)	
物忘れ外来(神経内科)	午後				山口(完全予約制)			
循環器内科	午前			天野	天野	天野	天野	天野
循環器内科(不整脈外来)	午前							田村
脳神経外科	午前		1診:内藤 2診:岩井	高玉真	1診:内藤 2診:高玉真	1診:内藤 2診:岩井	1診:宮本 2診:内藤	1診:高玉真 2診:宮本
	午後			岩井(14:30まで)	岩井(14:30まで)			
整形外科	午前		佐藤院長 加藤	島田	佐藤院長 館野	佐藤院長(10:30まで) 加藤	館野 島田	佐藤院長(第1) 島田(第1.5) 館野(第3.5) 加藤(第3)
	午後		加藤		館野		島田	
眼科	午前		高玉篤	高玉篤	高玉篤	高玉篤	高玉篤・遠藤	高玉篤
	午後			高玉篤	高玉篤(隔週)	高玉篤		
皮膚科	午前		渋沢	渋沢			渋沢	
	午後				渋沢			
泌尿器外来	午前		矢嶋		一ノ瀬		黒川	
	午後		矢嶋					
漢方外来(内科)	午前					古川		
高血圧外来	午前		中村哲也	中村哲也				
糖尿病外来	午前			中村保子				中村保子
	午後						中村保子	
内視鏡	午前				山田(第2,4)(胃)		乾(胃)	
	午後				山田(第2,4)(大腸)		乾(大腸)	
麻酔科	午前		増田		増田(10:30まで)		佐藤美恵	
睡眠時無呼吸外来	午前						山口(第2,4) (完全予約制9:00～11:30)	
リハビリテーション科	午後					神宮		
腎臓リウマチ内科	午後			諏訪(第1)・渡辺(第3)				
歯科・口腔外科	午前		福士・戸谷	福士・戸谷	福士・戸谷	福士・戸谷・伊達	福士・戸谷	福士(第1,3,5) 戸谷(第2,4)
	午後		福士・戸谷	茂木・福士・戸谷		福士・戸谷・伊達	福士	

公益財団法人 老年病研究所附属病院

〒371-0847 群馬県前橋市大友町3-26-8 TEL 027-253-3311(代表) FAX 027-252-7575(代表)
E-mail: info@ronenbyo.or.jp ホームページアドレス <http://www.ronenbyo.or.jp/>

地域医療福祉連携室・相談室

TEL 027-253-4108 FAX 027-253-4135